

■国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

■国語科の特質に応じた見方・考え方

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

■高知県が目指す授業づくりのコンセプト**○国語科における「学びを変える」授業づくりとは**

課題解決的な学習を通して、指導事項に示す資質・能力の着実な定着が図られるよう学習過程を工夫することです。そのためには、児童が自分の課題を明確にした上で学習の見通しをもち、目的や必要性を意識しながら学びを進めることができる適切な言語活動を設定することが必要です。また、それを通して、どのような資質・能力を育成するのかを明確にして指導することが大切です。

○国語科における「学びをつなげる」授業づくりとは

指導内容の系統性に基つき資質・能力を整理し、各学年の指導計画に沿いながら、言語能力が系統的・段階的に高まるようにすることです。そのためには、9年間で育成を目指す資質・能力の系統を捉え、学年ごとに重点を置くべき指導内容や、単元で働かせる言葉による見方・考え方を明確にし、児童の学習や発達の段階を考慮して、螺旋的・反復的に指導がなされるよう計画を立てていくことが大切です。

○国語科における「学びを高める」授業づくりとは

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ることです。そのためには、目的意識や相手意識が明確な言語活動を設定し、深い学びの鍵となる言葉による見方・考え方を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、質の高い深い学びにつなげることが重要です。

■国語科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容**○学習過程の明確化、「考えの形成」の重視**

各領域ごとに、学習過程が一層明確になり、それぞれの過程に指導事項が設定されています。ただし、学習過程は指導の順序性を示すものではないため、必ずしも指導事項を順番に指導する必要はありません。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の全領域に「考えの形成」に関する指導事項が示され、自分の考えを形成し、深める力の育成が重視されています。

○言語活動の創意工夫

学習指導要領には、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の指導事項を実現できるように、言語活動例を種類ごとにまとめた形で示しています。各学校では、言語活動例を参考にしつつ創意工夫をして、言語活動の具体化を図ることが必要です。指導のねらいと言語活動の特徴を吟味することで、多彩な言語活動を構想することができます。

○他教科等との関連

言語能力の育成に向けて、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにします。また、国語科と同様、言語を直接の学習対象としている外国語活動及び外国語科との連携は特に重要なものとなります。例えば、指導の時期を工夫すること、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫することなどが考えられます。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度。

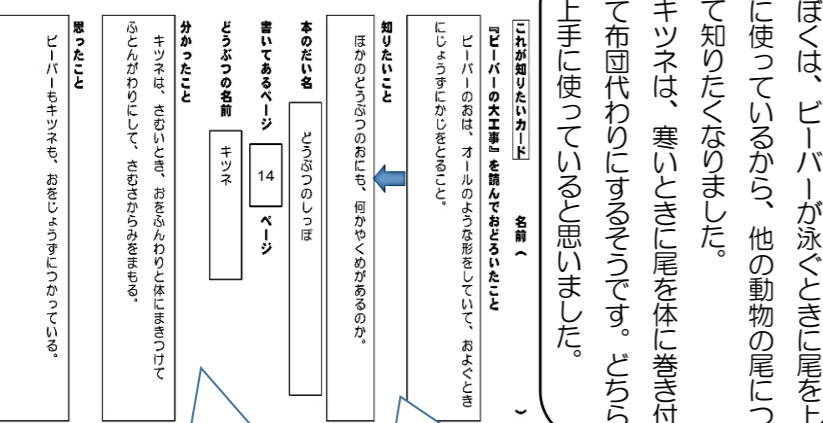
知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関わる事項 読書 工 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。

《単元末に期待する子供の姿の例》



ほへは、ビーバーが泳ぐと尻尾を上手に使っているから、他の動物の尻尾について知りたくなりました。 キツネは、寒いとぎに尻尾を体に巻き付けて布団代わりになっているみたいです。上手に使っていると思いました。

どうぶつのからだシリーズの「どうぶつのしっぽ」には、いろいろな動物のしっぽの役目を書いてあったよ。

ビーバーのように、ほかの動物の体にも、ひみつがありそうだ。どんなひみつか調べてみたいな。



引用関連図書 「どうぶつのからだ⑥ どうぶつのしっぽ」 増井光子 監修 株式会社偕成社（2010）

《主たる教材例》「ビーバーの大工事」、「本でしらべよう」（東京書籍2年下）

《個々の子供の状況に応じた配慮》 ◇動物の体の特徴や生態について書かれた段落を示す。 ◇教材文と関連した事柄が書かれている図鑑や科学的な本を用意する。

《他教科等との関連》 【生活】第1・2学年 【理科】第3・4学年 ○生き物や植物等を観察したり、調べたりする活動

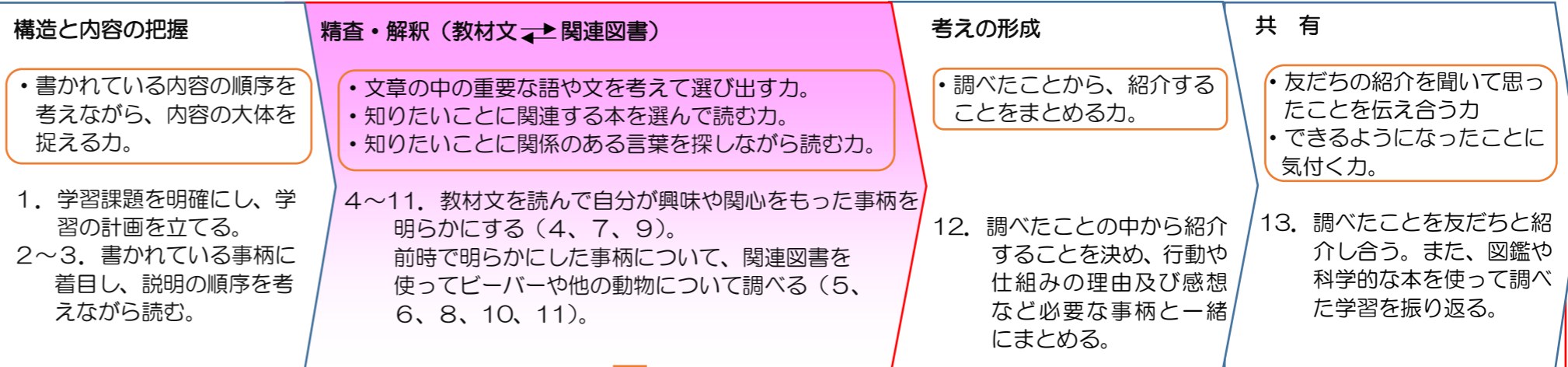
Table with 6 columns showing the main quality and ability system for each grade level from 1st to 3rd grade.

資質・能力を身に付けるための言語活動例

言語活動 ●もっと知りたい！どうぶつのひみつをしらべよう

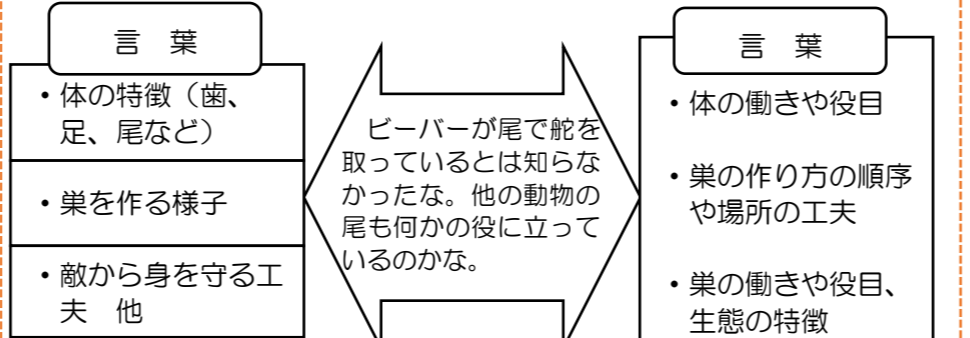
～自分が知りたい動物の秘密を明らかにし、図鑑や科学的なことについて書いた本などを使って調べる～

本単元では、自分が知りたいと思った動物の体のつくりや生態について図鑑や科学的な本を使って調べ、友だちと伝え合う活動を設定している。ここでは、教材文を読んで興味や関心をもったことを明らかにし、その事柄について類似する他の動物について調べる。知りたいことを調べるためには、自分が知りたいと思った事柄やそれと関係のある言葉を探ることが必要である。教材文を読む時間と関連図書を使って調べる時間とを交互に行うことで、児童が自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文と、自分が知るべきことについて詳しく知るために必要になる言葉や文を捉える力を養うことができると考える。



教材文

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》 *もっと知りたいことは何かな？

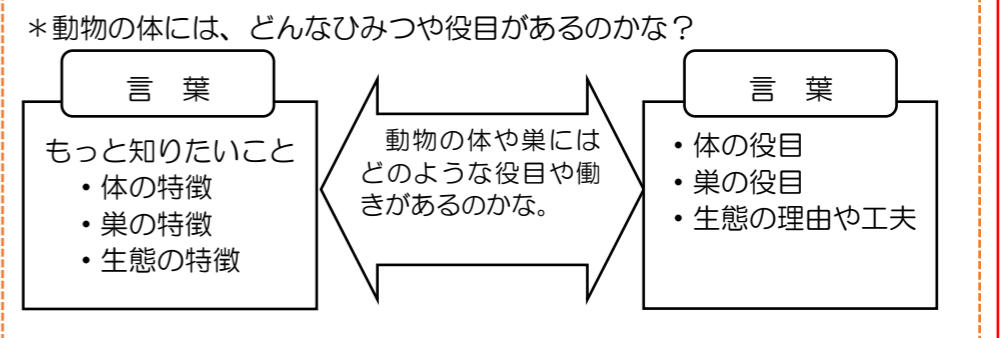


見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・文の中の大事な言葉（動物の体や巣の特徴とその働きや役目などの関係性）に気づき、もっと知りたいことを明らかにしている姿。

関連図書

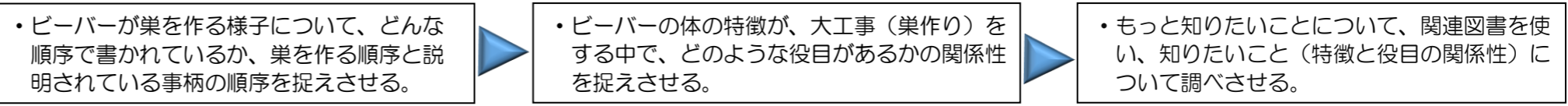
《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》 *動物の体には、どんなひみつや役目があるのかな？



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・自分が知りたいことを明らかにし、その事柄に関連する言葉を手掛かりにしながらか関係性について調べている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例



三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための言語活動例

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項 文や文章 力 文の中における主語と述語の關係に気付くこと。

思考力、判断力、表現力等

C 読むこと イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Cエを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

振り返りのノート（例）

わたしは三場面を読みました。一回目の「がまくん」は、わくわくした感じで大きな声で読みました。「かえるくんは家からとび出しました。」というところで、かえるくんはがまくんのよるこぶところを早く見たいとたのしみにしていったら思ってたからです。二回目は、よびかけるように読みました。がまくんがおきてくれなかったので、おきてお手紙をまわってほしいかっと思っただけです。音読するところだけではなく、さし絵を見たり、ほかのところのしたことや言ったことも読みだると、よすががそうぞうでできて、言い方や声の大きさをくふうすることができると分かりました。

《主たる教材例》「お手紙」（東京書籍2年下）

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇登場人物の会話が区別できるように、教材文の会話文に色別のシールを貼る。

◇教材文の全文が見渡せるようにした用紙を準備し、考えの根拠となる部分にサイドラインを引くことができるようにする。

《他教科等との関連》

【特別の教科 道徳】第1・2学年 OB 主として人との関わりに関すること

言語活動 ●「お手紙」の音読劇をしよう ～叙述を基に、登場人物の行動や表情・口調・様子等を具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりする～

本単元では、叙述を基に登場人物の行動等を想像して音読劇で伝える言語活動を設定している。本教材の特徴として、物語の大体が会話文で構成されているため、音読劇で表現するのに適している。また、児童の発達段階を踏まえ、音読劇は、興味・関心をもって取り組める活動であると捉える。音読劇は、登場人物の様子を、声の強弱や口調等の工夫によって表現することが求められる。そのためには、登場人物の行動等を叙述から具体的に想像することが必要であるため、本単元で、身に付ける力を育成することができる。と考える。

構造と内容の把握

- 主語と述語の關係に気付く力。
物語を大づかみに捉える力。

- 1. 教師による既習の物語の音読劇を見て、単元のゴールイメージと学習に対する意欲をもつ。
2～3. 叙述や挿絵を手掛かりに、主語と述語の關係に気を付けて、誰が何をしたのかをまとめる。

精査・解釈

- 場面の様子に着目して、登場人物の行動や表情・口調・様子等を具体的に想像する力。

- 4～5. 登場人物の行動や表情等を具体的に想像し、どのような読み方をするのか考える。

考えの形成

- 想像したことと自分の体験とを結び付けて、音読等の工夫を考える力。

- 6～7. 3人のグループで音読したい場面を選び、練習をする。

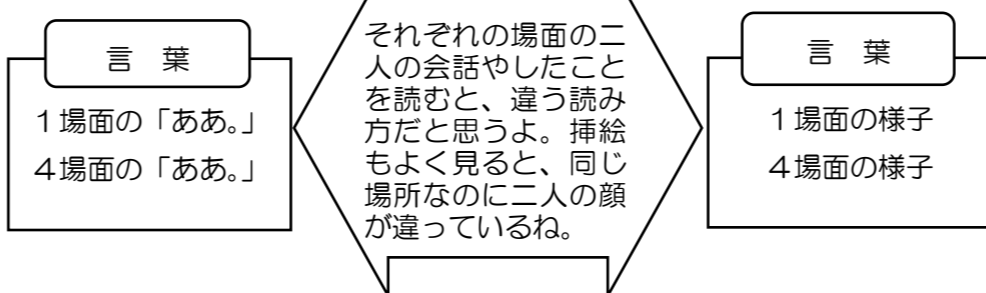
共有

- 友達や自分の音読の工夫のよさに気付く力。

- 8～9. お互いの音読劇を見て、感想を伝え合い、想像したことを表現できていたか振り返る。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

*がまくんが言った、1場面の「ああ。」と4場面の「ああ。」は同じ読み方でいいかな？



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- 各場面の様子と叙述に着目して、共通点や相違点を認識しながら読み方を考えている姿。

子供のノート（例）

Table with columns for scene (1st and 4th), reading style (voice volume), and student notes. The notes describe how the student's reading style changed from a soft voice in scene 1 to a loud voice in scene 4 based on the illustrations.

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- 各場面の挿絵を提示し、それぞれの場面で誰が、何をしたかを表にまとめさせる。

- 1場面と4場面の挿絵の共通点や相違点に着目させ、その理由を叙述に基づいて考えさせる。

- 感想カードを準備し、友達の音読劇のよさとその理由を記入して渡し合うことで、友達や自分の読みのよさに気付かせる。

Main table showing the system of quality and ability across grades. It lists specific learning goals for each grade level, from 1st/2nd to 3rd middle school, centered around the theme of 'observing and imagining scenes and characters'.

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための言語活動例

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項 情報の整理
イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方

思考力、判断力、表現力等

B 書くこと
ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。
イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

本単元では「思考力、判断力、表現力等」Bイを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

なぜプールは25mなの？
3年2組 高知 たろう
1 調べた理由
ぼくは、どうして学校のプールは25mなのか、20mではダメなのか、とても気になったので調べてみました。
2 調べ方
.....
3 調べて分かったこと
(1)学校のプールの種類
本で調べると、学校のプールはどれも25mか50mとなっており、学校のプールを作るとききまりということが分かりました。
(2)25mの理由
世界中で行われる水泳のきょうぎは、100mや200mが多いので、100mのきょうぎの練習をするとき、25mプールだと2おうふく、50mプールだと1おうふくでちょうど100mになるから、25mや50mプールがいいことが分かりました。
先生に聞くと、「20mだと、2おうふくしてもちょうど100mにならないから、25mの方が使いやすいね。」と言っていました。
4 調べた感想
.....
調べるときに使った本
『○○』

レポートには、「題（調べたこと）」「調べた理由」「調べ方」「調べて分かったこと」「調べた感想」の順で、書くことと分かりやすいね。

調べて分かったことを分かりやすく伝えるためには、どのような内容や組み立てで書くこととよいか考え、整理して書く必要があるんだな。

言語活動 ●ふしぎ！気になる！調べたい！「学校のふしぎレポート」で伝えよう

～伝えたいことを明確にし、内容のまとまりを押さえて文章の構成を考える～

本単元では、自分たちの学校のいろいろな「ふしぎ」について調べたことをレポートにまとめ、報告する言語活動を設定する。レポートにまとめるためには、調べたいこととその理由をはっきりと持ち、解決のための情報を集めることが必要である。次に、取材や観察をして集めた情報を、比較、分類、整理する活動を通して、自分が伝えたい内容を明確にしていく。また、内容のまとまりを押さえ、分かりやすく伝える文章の構成を考えることも必要であることから、本単元で身に付ける力を育成するのに適した言語活動であると考えている。

題材の設定、情報の収集、内容の検討

- 自分が調べたいことを探す力。
情報を集める力。
必要な情報を選ぶ力。

- 調べたことをレポートにして報告し合う「学校のふしぎレポート交流会」について知り、課題解決への見通しをもつ。
2. 学校生活の中で不思議に感じていることを見付け、その中からレポートに書くことを選ぶ。
3. 不思議を解決するために、本で調べたり、取材したり、観察したりして情報を集める。
4. 自分が調べたいことと集めた情報が合っているかを考え、必要な内容を選ぶ。

調べることメモ
3年2組 高知たろう

調べたいふしぎ	どうやって調べる？	順位

構成の検討

- 調べて分かったことを内容のまとまりごとに整理する力。
レポートの組み立てを考える力。

5～6. 調べて分かったことを分かりやすく伝えるにはどのような構成したらよいかを考え、組み立てメモを作る。

考えの形成、記述

- 事柄同士の関係を押さえ、見出しを活用して書き表す力。

7～8. 組み立てメモを基に、伝えたいことが明確になるように、工夫して書く。

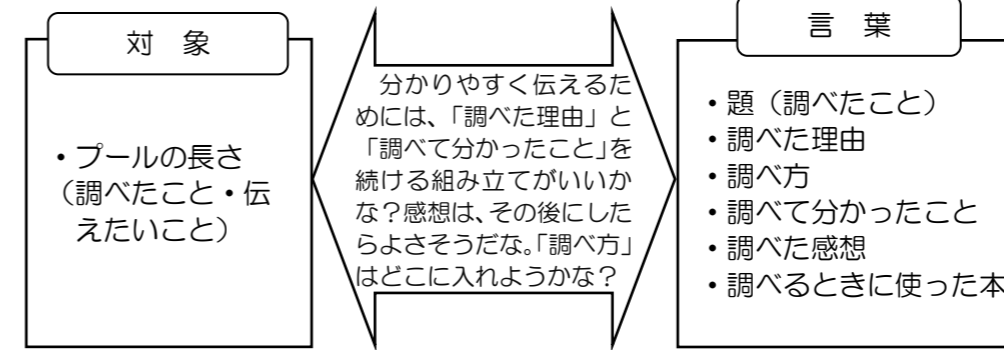
共有

- 自分の文章のよいところに気付く力。

- 友達とレポートを読み合って意見を伝え合い、よりよい表現に書き直す。
10. 他の学級と「学校のふしぎレポート交流会」を行い、感想を伝え合う。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

*どんな組み立てで書くと、分かりやすく伝わるのかな？



組み立てメモ(例)

題(調べたこと)
3年2組 高知 たろう

1 調べた理由
2 調べ方
3 調べて分かったこと (1)..... (2)..... (3).....
4 調べた感想
5 調べるときに使った本

見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- レポートの特徴を理解し、それぞれの部分に書く内容を確かめ(項目と情報の一致)、項目と項目の関係に気を付けて、文章の構成を考えている姿。

《主たる教材例》「調べて書こう、わたしのレポート」(東京書籍3年上)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

- ◇児童の普段の会話の中から、学校生活の中で不思議に感じることを例としていくつか取り上げ、類似する内容を本単元の学習までに集めさせておく。
◇「調べることメモ」の内容が、「レポートの組み立て」のどこに当たるのかが分かるように、内容別に色分けをしておく。

《他教科等との関連》

【総合的な学習の時間】第3学年
○知りたいことに応じた方法で調べ、調べたことを比較したり、分類したりして、自分の考えをまとめて書く活動。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・集めた情報が調べたいことと合っているかを「調べることメモ」と比べて考えさせる。

・個人で組み立てメモの項目を考えるときのヒントとなるよう、伝えたいことと調べた内容が合っていない組み立てメモや、項目がたくさんある組み立てメモを例にして、着目ポイントを可視化する。

・友達のレポートにアドバイスが言えるよう、読み合う時の視点を示す。

主な資質・能力の系統

第1学年及び第2学年
◆自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

本単元

第3学年及び第4学年
◆書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。

第5学年及び第6学年
◆筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。

中学校第1学年
◆書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。

中学校第2学年
◆伝えたいことが分かりやすく伝えるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。

中学校第3学年
◆文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等
言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能
(2) 情報の扱い方に関する事項
情報の整理
イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

思考力、判断力、表現力等
A 話すこと・聞くこと
イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Aイを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》
自分が伝えたいことを分かりやすく伝えるためには、伝えたいことの根拠になる資料や体験を組み合わせると、具体的にイメージしてもらえるね。
より説得力を増すためには、複数の資料から、大切な言葉や具体的な数値を引用することも効果的だね。
資料や体験から話せる事実の部分と、そこから自分が考えた意見や感想の部分とを、分けて話すと聞く人が分かりやすいから、自分が伝えたいことをより分かってもらえるよね。

《主たる教材例》「資料を見て考えたことを話そう」（東京書籍5年）

《個々の子供の状況に応じた配慮》
◇事実と考えを区別して捉えるという一つ一つの資料の読み方ができるように、グラフや表を準備して視覚的な支援をする。
◇文章構成の捉えが苦手な児童には、意味段落のまとまりを四角囲みした教材文を準備する。一文一文の動きの捉えが苦手な児童には、結論部分を一文ずつ改行した教材文を準備する。

《本単元の関連領域》
第5学年
○事実と考えを区別しよう・環境問題について報告しよう（書く）

《他教科等との関連》
【総合的な学習の時間】第5学年
○ぼくたち・私たち「潮江菜ひろめ隊」！

Table with 2 columns: 第1学年及び第2学年, 第3学年及び第4学年. Content: 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えると。

言語活動 ●潮江菜ひろめ隊！一地域の伝統野菜の魅力発信しよう～自分の考えの中で最も伝えたいことを、資料と関係付けて、考えが明確に伝わるように話す～

本単元では、総合的な学習の時間で取り組んできた地域の伝統野菜の魅力、たくさんの人に知ってもらうために、話し方の構成や資料を工夫して分かりやすく伝える言語活動を設定する。生産者の方から「伝統野菜を知らない人たちに宣伝をして欲しい」という依頼を受けた子供たちに、その魅力を知ってもらったり、買ってもらうにはどう宣伝すればよいのかという問いを持たせる。そして、一人一人が考える、最も伝えたいこと（歴史や背景・栄養価・食べ方・生産者の情熱・広めるための取組など）を明確に伝えるために、話の構成を工夫したり、考えの基になる資料や自分の体験と関係付けたりしながら話すことで、国語科の資質・能力を育成できると考える。

話題の設定、情報の収集、内容の検討
構成の検討、考えの形成
表現、共有
1. 発信の目的・相手・相手に期待すること・ゴールの具体的なイメージを明確にし、単元全体の問いと見通しをもつ。
2. 選んだ資料から分かったこと（事実）と、それに対する意見や感想とを分けて表に整理し、自分が最も伝えたいことを決めて話す練習をする。
3～4. 最も伝えたいことは何か、どの資料や体験から考えたのか、関連を考慮して構成メモを作成して話す練習をする。
5. 伝えたいことをより分かりやすくするために、発表原稿の本論の部分を見直して話す練習をする。
6. 伝えたいことをより分かりやすくするために、発表原稿の結論の部分を見直して話す練習をする。
7. 実際の「土佐野菜マルシェ」での活動や単元全体を振り返り、できるだけようになったことやこれから活用していきたいと考える場面やスキルを学級全体で共有し、学習の貯金としてまとめる。

総合的な学習の時間 ぼくたち・私たち「潮江菜ひろめ隊」！ との関連

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》
*「土佐野菜マルシェ」の来場者に「潮江菜」の魅力をより分かりやすく発信するためには、どのように話せばよいのかな？
言葉
・結論部分の一文一文の働き
◆本論を要約する
◆体験と関連させる
◆自分の考えを伝える
言葉
・序論、本論、資料の文章や情報
見方・考え方を働かせる子供の姿の例
・結論部分の一文一文の働きを、序論・本論・複数の資料と関係付けて捉え、自分が発信する話の中に取り入れている姿。
事実と意見や感想とを区別して話すためのポイント（例）
教材文
結論 本論2 本論1 序論
三文目 一文目 二文目
要約
資料 資料 資料
意見・考え・感想
事実
事実

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例
・資料から分かる事実と、それに対する自分の意見をもたせることで、「最も伝えたい」ことを明確にもたせる。
・分かりやすく伝わる話し方のグッドモデルと不十分モデルを比較することで、より説得力のある話し方の工夫に気付かせる。
・文章と資料の関係性を矢印や動きを表すキーワードを用いて視覚化して示すことにより、伝えるためのポイントのよさを実感させる。

Table with 2 columns: 第5学年及び第6学年, 中学校第1学年, 中学校第2学年, 中学校第3学年. Content: 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

語彙 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

思考力、判断力、表現力等

B 書くこと

工 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

資質・能力を身に付けるための言語活動例

言語活動 ● 知ってほしい！地球の現状 家族で変えていこう！これからの生活 「わたし発 環境問題へのメッセージ」 ～資料を効果的に活用し、調べて分かったことや考えたことを報告する～

本単元では、社会科の学習で調べた環境問題について、家族と一緒に取り組んでいきたいという思いを伝えるため、自分の考えを明確にし、報告文にまとめるとい言語活動を設定する。自分が伝えたいことをより相手に分かりやすく伝えるには、説明したり呼びかけたりするための言葉や資料が効果的な働きをしているかどうかを吟味したり、自分の考えを分かりやすく伝えるための文章構成になっているかを考えたりするなどの、各学習過程における言語能力の育成が大切である。「伝えたい。書きたい。」という思いを膨らませ、児童が主体的に学びながら、資質・能力を身に付けることができる言語活動である。

題材の設定・情報の収集・内容の検討

- 自分が伝えたいことを絞り込む力
- 情報を集め、必要に応じて選び出す力

- 社会科の学習で知ったさまざまな環境問題の中で、自分が課題意識を持ち、家族に伝えたいと思ったことを選ぶ。
- 選んだ環境問題についての本や資料を読み、自分の生活との関わりや、家族とともに解決していきたい思いを基に、内容を絞る。
- たくさんの資料の中から自分が伝えたい内容にぴったり合うものを選び出す。

構成の検討

- 伝えたいことが伝わるような報告文の構成を考える力

- 教科書のモデル文や構成メモを参考に、自分が伝えたいことをどのような構成で書くのかを考え、構成メモを作成する。どの部分に資料を使うと効果的かを考える。

考えの形成・記述

- 事実と自分の考えを区別し、効果的な構成や言葉、引用した資料を使って書き表し方を工夫する力

- 5～6. 構成メモを基に、伝えたいことが伝わるように報告文を書く。書いた文章を何度も読み返し、使う言葉や資料などの使い方を工夫する。何度も読み返し工夫する中で、自分の考えをより明確にしていく。

記述・推敲

- 内容や表現に一貫性があるか考えながら文章を整える力

7. 文章全体の構成や言葉、資料の使い方など書き表し方に着目して、文や文章を整える。

共有

- 相手に伝える文章としてよいところを伝え合う力

8. 書き上がった報告文を友達と読み合い、どんなことが伝わってきたか感想を伝え合う。

記述、交流、推敲を繰り返す中で、より自分が伝えたいことを明確にしていく。その際、選んだ内容や資料、構成、使う言葉などに修正が必要な場合は、児童が学習過程を行き来しながら考えられるように支援する。各学習過程の時間配分を個々の児童に考えさせることも、主体的な学びに向かわせるポイントである。

《単元末に期待する子供の姿の例》

みなさんは、海に住むたくさんの生き物が、ゴミを食べて命をなくしているのを知っていますか。海にたくさんのゴミが流れており、それを生き物が食べているのです。環境省の調べによると、海洋ゴミの65.8%はプラスチックゴミで、このゴミがおよそ7百種類にもおよぶ海洋生物に影響しているといわれています。例えば、資料1の写真では、海岸に打ち上げられたクジラの口の中から、たくさんのプラスチックゴミが出てきています。よく見ると、ペットボトルのふたやプラスチックのストローなども見られます。他にも「BBCニュース」によると、「打ち上げられたクジラの死体から、重さ計四十キログラムにもなる大量のプラスチック袋が見つかった。」という例もあるそうです。

「話題の提示」のまとめには、読み手を引きつける問いかけの文章と、知ってもらいたい現状を書いた。

「くわしい説明」には、現状のひどさを伝えたかったから、ペットボトルのふたやストローなど、身近なゴミで命をなくしたクジラの写真や「重さ計40kgにもなる大量のプラスチック袋」という具体的な数値が分かる記事を引用して書いた。

資料1 海岸に打ち上げられたクジラの写真

《主たる教材例》「環境問題について報告しよう」(東京書籍5)

《個々の子供の状況に応じた配慮》

- 選んだ環境問題についての詳しい内容や資料を見やすく設置する。
- 探した資料が分かるよう、内容に応じて色分けした付箋を活用する。

《他教科等との関連》

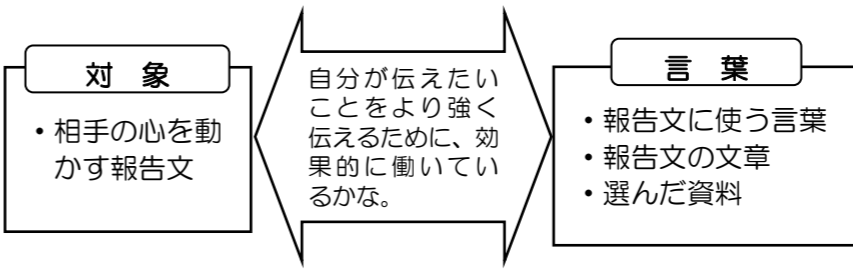
- 【社会】第4学年「健康なくらしとまちづくり」
- 世界や日本で起っている環境問題と身近な生活をつなげて考える活動。

構成メモの例

まとめ	くわしい説明	話題の提示
・	・	・
	図① グラフ①	写真①

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

* 報告文を書くために選んだ言葉や資料は、相手の心を動かすものになっているのかな。



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

- 自分が伝えたいことを明確にして、言葉や資料を引用し、自分の文章に用いている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- たくさんの本や資料の中から自分の考えを伝えるために必要なものを選び出せるよう、付箋や番号を付けさせ、メモとつなげさせる。
- 伝えたいことをより強く伝えるために効果的な資料であるかということに着目させるため、複数の資料を例に提示し、その効果を考えさせる場を設定する。
- 考えが伝わるということがどういうことかを全員で再確認し、読み合う時のチェックシートを基に交流させる。

主な資質・能力の系統

第1学年及び第2学年

- ◆ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとめが分かるように書き表し方を工夫すること。

第3学年及び第4学年

- ◆ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

本単元

第5学年及び第6学年

- ◆ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

中学校第1学年

- ◆ 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

中学校第2学年

- ◆ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

中学校第3学年

- ◆ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

三つの柱の資質・能力

資質・能力を身に付けるための言語活動例

学びに向かう力、人間性等

言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度。

知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 語彙
オ 思考に関わる語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

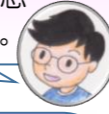
思考力、判断力、表現力等

C 読むこと
イ 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。
カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

本単元では〔思考力、判断力、表現力等〕Cイを指導の重点とする。

《単元末に期待する子供の姿の例》

ぼくは、太一のまっすぐで誠実な生き方が胸にひびきました。父をこえて「本当の一人前の漁師になる。」という幼い頃の誓いを胸に与吉じいさに弟子入りし、ずっと父が死んだ瀬にもぐり続けた太一は、本当に意志の強い人だと思ったからです。でも、そんな太一が、追い求めてきた瀬の主を「海のいのち」と思うことで仕留めなかったのは、太一の理想とする漁師の姿が変わったからだと思いました。



わたしも、太一の成長が強く心に残り、「人は、人との出会いで成長していく」と思いました。夢を叶えるためには、太一のような強い意志と努力が必要だと思うけど、自分と関わる人たちの生き方や考え方から学ぶことも大切だということに気が付かれたからです。「千びきにーびきでいいんだ。千びきいるうちーびきつれば、ずっとこの海で生きていけるよ。」という与吉じいさの教えの意味を理解し、受け入れたことで、村一番の漁師であり続けることができたと思えました。

《主たる教材例》「海のいのち」（東京書籍6年）

《個々の子供の状況に応じた配慮》

◇人物を表す言葉や心情を表す言葉を集めて掲示し、自分の考えをまとめる際に活用できるようにする。

《他教科等との関連》

【特別の教科 道徳】第5・6学年
OB 主として人との関わりに関すること

主な資質・能力の系統

第1学年及び第2学年

◆場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

第3学年及び第4学年

◆登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。

第5学年及び第6学年

◆登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

本単元

中学校第1学年

◆場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。

中学校第2学年

◆文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。

中学校第3学年

◆文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。

言語活動

●物語「海のいのち」を読んで、座談会で語り合おう。

～描写を基に登場人物の相互関係や人物の心情の変化を捉え、強く心に残ったこと（太一の成長や生き方）を交流する～

本単元では、物語「海のいのち」を読んで、太一の成長や生き方について強く心に残ったことを交流する「座談会」を設定している。教材文「海のいのち」は、成長していく太一（中心となる人物）の様子が、太一に関わる登場人物の生き方や考え方を通して抽象的に描かれている。人物の成長や生き方について考えるには、直接的な描写だけでなく、登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などで表現される暗示的な描写にも注意して読むことが大切になる。これらの描写に着目して心情の変化を捉え、豊かに想像することが必要であることから、本単元で身に付ける力を育成するのに適した言語活動であると考えられる。

構造と内容の把握

・描写を基に、人物相互の関係や心情を捉える力。

1. 学習課題を明確にし、学習の計画を立てる。
- 2～5. それぞれの登場人物の行動や会話、考え方が太一の成長にどのような影響を与えたのか考えながら読み、まとめる。

精査・解釈

・複数の叙述を結び付けながら、心情の変化を見だし、具体的に想像する力。

6. 山場での太一の心情の変化を考える。

考えの形成

・読み取ったことを基に、自分の考えをまとめる力。

7. 前時までに学習したことや、これまでの経験を踏まえて、強く心に残ったことをまとめる。

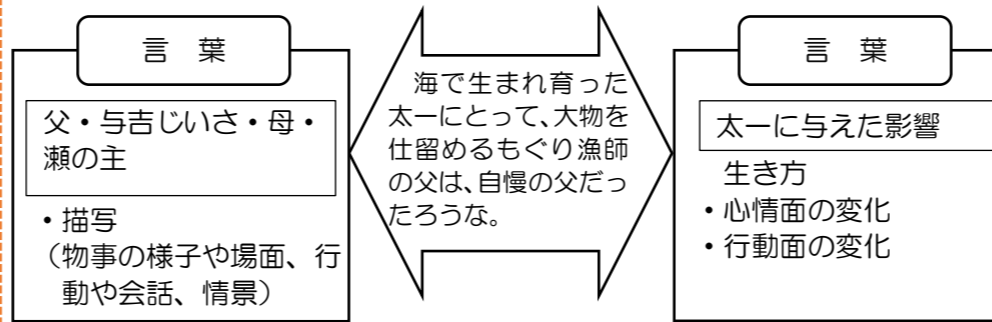
共有

・互いの考えの違いを明らかにしたり、互いの意見や感想のよさを認め合ったりする力。

8. 前時にまとめたことを基に、強く心に残ったこととその理由をグループで伝え合い、よく分かったことや、自分の考えが変わったこと振り返る。

《言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例》

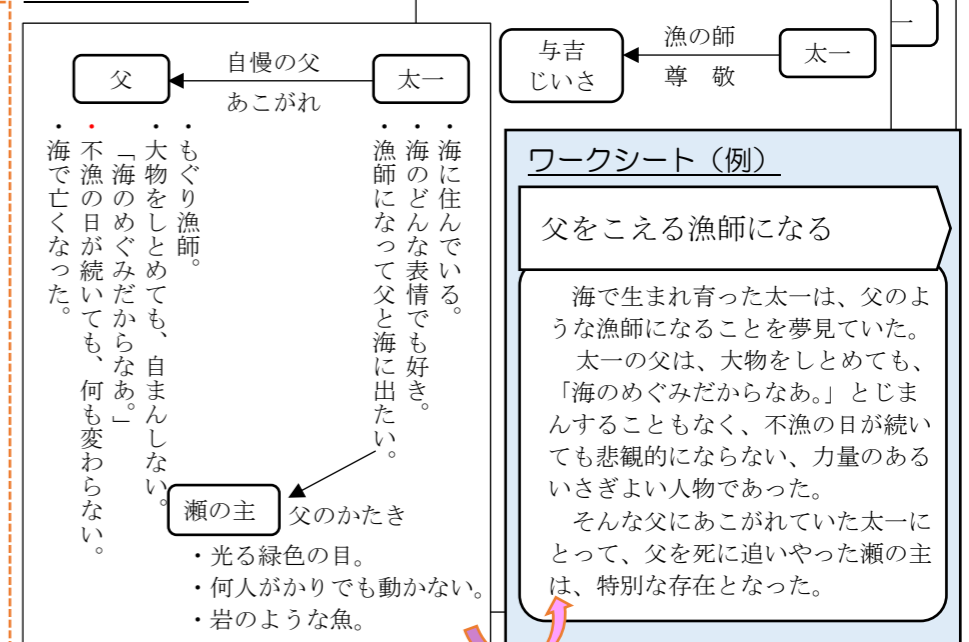
*登場人物は、太一の成長にどのような影響を与えたのかな？



見方・考え方を働かせる子供の姿の例

・描写を基に、登場人物の相互関係や心情を捉え、太一の人物像を形成していく姿。

人物関係図（例）



ワークシート（例）

父をこえる漁師になる

海で生まれ育った太一は、父のような漁師になることを夢見ていた。太一の父は、大物をしとめても、「海のめぐみだからなあ。」とじまんすることもなく、不漁の日が続いても悲観的にならない、力量のあるいさぎよい人物であった。そんな父にあこがれていた太一にとって、父を死に追いやった瀬の主は、特別な存在となった。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

・読むための視点（会話・行動・情景）を示し、直接的に描写されていない表現にも着目させる。

・叙述を基に人物相互の関係を図に整理し、登場人物のものの見方や考え方を交流させ、まとめる際に取り入れたい意見は、赤で付け加えさせる。

・太一の成長や生き方について強く心に残ったこと、そう考えた理由を座談会で交流させ、共有したり、考えを広げさせたりする。